

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 カワウ駆除対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農山村振興課 鳥獣害対策室 鳥獣害対策係 電話番号：058-272-1111(内4173)

E-mail : c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 303 千円 (前年度予算額： 303 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	303	0	0	0	0	0	0	0	303
要求額	303	0	0	0	0	0	0	0	303
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

カワウ駆除対策に係る関係機関の調整及び現地確認等を行う。

(2) 事業内容

- ・カワウ被害対策会議、研修会の実施
- ・カワウ駆除対策事業に係る現地確認 等

(3) 県負担・補助率の考え方

カワウ駆除対策は、市町村をまたぐ広域の施策かつ県境を越えて他県と連携した対策が必要であり、県が主体となって事業を行う必要がある。

このため、当該経費は県が負担することが妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	108	カワウ被害対策会議、カワウ被害対策研修会
旅費	95	業務旅費及び費用弁償
需用費	64	事務用品及び用紙代等、備品買い替え
役務費	13	通信運搬費
使用料及び賃借料	23	カワウ被害対策会議・研修会会場使用料
合計	303	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 岐阜県カワウ管理・被害対策指針（令和5年度～令和14年度）
- ぎふ農業活性化基本計画(仮称・令和8年3月策定予定)(令和8年度～12年度)

(2) 国・他県の状況

- ・特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン及び保護管理の手引き（カワウ編）の策定（環境省）
- ・カワウ被害対策計画等の策定（25都府県）

(3) 後年度の財政負担

カワウ等の被害対策は、漁業協同組合が受忍できる程度にカワウ等の個体数を減少させ、これを維持することである。カワウ等は毎年県外から飛来してきているため根絶そのものは難しく、持続的な対策の実施と経年的な予算措置が必要である。

(4) 事業主体及びその妥当性

カワウは1日に15～25キロメートルの広範囲を移動しており、市町村をまたぐ対策が必要であるため、県が中心となって広域的な取組を進めるとともに、その成果を踏まえて段階的に取組の枠組みづくりを進める必要がある。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
カワウ駆除対策に係る関係機関との調整及び現地確認等を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

本事業費はカワウ駆除対策に係る関係機関の調整等に必要な経費であり、個別のカワウ駆除対策事業に係る目標については、別途掲げているため。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	県内のカワウのコロニー及びねぐらの生息羽数調査（年3回・59か所）を実施し、カワウ駆除対策の効果の検証を行うことができた。 また、カワウ被害対策指針の改訂に向けた検討会を開催すると共に、県内のカワウ生息状況に関する情報共有、今後の対策や関係機関との連携についての調整を行うことができた。
令和5年度	県内のカワウのコロニー及びねぐらの生息羽数調査（年3回・60か所）を実施し、カワウ駆除対策の効果の検証を行うことができた。 また、カワウ管理・被害対策指針に基づく検討会を実施し、県内のカワウ生息状況に関する情報共有、今後の対策や関係機関との連携についての調整を行うことができた。
令和6年度	県内のカワウのコロニー及びねぐらの生息羽数調査（年3回・63か所）を実施し、カワウ駆除対策の効果の検証を行うことができた。 また、カワウ管理・被害対策指針に基づく検討会を実施し、県内のカワウ生息状況に関する情報共有、今後の対策や関係機関との連携についての調整を行うことができた。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	カワウの被害は依然として深刻であり、継続した対策の実行が必要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	カワウは県外から飛来してくるため、依然としてカワウの被害は深刻であるが、捕獲活動や各漁協への支援について、関係団体から一定の評価が得られている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	カワウ管理・被害対策検討会を実施し、関係機関との情報共有とカワウ駆除対策の効果検証、今後の対策に関する意見交換を行っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

カワウ対策に係る関係機関（漁業協同組合、市町村及び県等）の連絡調整体制を整備し、カワウの捕獲及び追い払い等の情報共有を行う。

また、県境を越えて季節移動するカワウの対策には、県域を越えた連携が必要となる。今後、中部近畿カワウ広域協議会等において積極的な情報共有を行い、関係府県で連携した広域対策が行われるように働きかけを行う。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

県外からの飛来等により、依然として漁業被害が深刻な状況にあり、関係機関と連携して継続して対策を実施する必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	